

平成25年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年2月13日

上場取引所 大

上場会社名 ソーシャル・エコロジー・プロジェクト株式会社

コード番号 6819 URL <http://www.social-eco.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 守谷 隆志

問合せ先責任者 (役職名) -

(氏名) -

TEL 03-5786-3900

四半期報告書提出予定日 平成25年2月14日

配当支払開始予定日 -

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第3四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第3四半期	1,565	△4.3	△8	—	6	△27.5	116	78.3
24年3月期第3四半期	1,635	△5.5	△1	—	8	—	65	—

(注) 包括利益 25年3月期第3四半期 129百万円 (183.5%) 24年3月期第3四半期 45百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第3四半期	5.43	—
24年3月期第3四半期	3.05	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期第3四半期	1,067	258	24.3
24年3月期	1,140	129	11.3

(参考) 自己資本 25年3月期第3四半期 258百万円 24年3月期 129百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
25年3月期	—	0.00	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,144	2.1	△34	—	△28	—	82	69.6	3.82

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(注)「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第10条の5に該当するものであります。詳細は添付資料4ページ「2. サマリー情報(注記事項)」に関する事項(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

25年3月期3Q	21,496,537 株	24年3月期	21,496,537 株
25年3月期3Q	17,423 株	24年3月期	17,123 株
25年3月期3Q	21,479,251 株	24年3月期3Q	21,480,158 株

当社は、平成23年7月1日付で普通株式10株を1株に株式併合を行いました。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、期末発行済株式数及び期中平均株式数を算定しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「経営成績に関する分析」をご覧ください。
- ・当社は、平成23年7月1日付で普通株式10株を1株に株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、1株当たり四半期(及び当期)純利益金額を算定しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	5
4. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	9
(3) 継続企業の前提に関する注記	10
(4) セグメント情報等	11
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	12
(6) 重要な後発事象	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、不透明さが残るものの、東日本大震災からの復興需要による景気の下支えなどにより、景気回復に向かうことが期待されています。また、政権交代によって為替市場における円高の修正が進んでおり、株式市場も回復基調となっております。一方で、中国の経済成長が鈍化傾向にあること等により、景気の先行きは依然として予断を許さない状況となっております。

このような状況下、当社が展開するレジャー事業におきましては、集客数及び売上高とも前年同期に比べて減少しております。

映像・音盤関連事業におきましては、広告業界が回復基調となっておりますが、連結子会社である株式会社FLACOCOは、経常損失を計上しております。

投資事業においては、引き続き過去に投資した債権の回収を図っております。

以上の結果、当第3四半期累計期間は、売上高15億65百万円（前年同四半期に比べ4.3%減）、営業損失8百万円（前年同四半期は営業損失1百万円）、経常利益6百万円（前年同四半期に比べ27.5%減）、四半期純利益1億16百万円（前年同四半期に比べ78.3%増）となりました。

当第3四半期の概況を部門別に示すと、次のとおりであります。

(レジャー事業)

当第3四半期連結累計期間におけるレジャー事業につきましては、株式会社サボテンパークアンドリゾートが運営する伊豆シャボテン公園では「元祖カピバラの露天風呂30周年記念」に伴い、さまざまなイベントを開催いたしました。伊豆ぐらんぱる公園では新アトラクションとして、ランニングバイクやBMX自転車のお子様向け自転車コースによる「わんぱくライダーPark」や「伊豆ぐらんぱる探検隊vol.2トレジャーハント財宝“X”と幸せの女神」などのアトラクションをオープンいたしました。伊豆四季の花公園では「ちびっこ宝探し」、「大好評!あじのつかみどり!」などを開催し、大変ご好評をいただきました。

この結果、レジャー事業においては、売上高14億71百万円、営業利益19百万円となりました。

(映像・音盤関連事業)

当第3四半期連結累計期間における映像・音盤関連事業につきましては、株式会社FLACOCOによるCM制作による売上や当社グループが保有するコンテンツの二次使用による著作権収入がありました。当第3四半期における映像・音盤関連事業における営業損失は、広告業界の厳しい環境の影響から、当社の子会社である株式会社FLACOCOの売上が減少したことが影響しております。

この結果、映像・音盤関連事業においては、売上高93百万円、営業損失20百万円となりました。

(投資事業)

当第3四半期連結累計期間における投資事業につきましては、具体的な投資案件はありませんでした。

この結果、投資事業においては、売上高はありませんでした。

(その他)

当第3四半期連結累計期間におけるその他の事業につきましては、売上高0百万円、営業損失3百万円となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて68百万円減少し、2億27百万円となりました。これは主として、現金及び預金が1億5百万円減少したこと等によります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて3百万円減少し、8億39百万円となりました。これは主として、建物及び構築物が5百万円減少したこと等によります。

この結果、資産合計は前連結会計年度末に比べて72百万円減少し、10億67百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて1億99百万円減少し、5億95百万円となりました。これは主として、未払金が1億63百万円減少したこと等によります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて2百万円減少し、2億13百万円となりました。これは主として、退職給付引当金が4百万円減少したこと等によります。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて2億2百万円減少し、8億8百万円となりました。

(純資産)

純資産合計は、2億58百万円となりました。

また、自己資本比率は前連結会計年度末の11.3%から24.3%となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

連結業績予想につきましては、平成24年11月13日に発表しました平成25年3月期通期の業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当第3四半期連結会計期間において、平成24年10月1日付で新設分割を行い株式会社伊豆四季の花・海洋公園を新たに新設したため、連結の範囲に含めております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(簡便な会計処理)

1 一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第3四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。

2 固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度の減価償却費の額を期間按分する方法により算定しております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理)

1 税金費用の計算

当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効率を乗じて計算する方法を採用しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

なお、これによる当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

当社グループは、将来に渡って事業活動を継続するとの前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況その他会社の経営に重要な影響を及ぼす事象が存在しております。

具体的には、平成23年3月期に引続きまして、平成24年3月期におきましても営業損失20,789千円となっております。なお、当第3四半期連結累計期間においては営業損失8,595千円、経常利益6,224千円、四半期純利益116,728千円を計上しております。

平成25年3月期に当該事象を解消すべく、レジャー事業においては、株式会社サボテンパークアンドリゾートが運営する各施設において、魅力的な公園施設の改善、イベントの拡充、物販の拡充、お客様満足度向上、効果的な宣伝広告を実施することにより集客力の強化を図ります。

伊豆シャボテン公園では、お客様がご満足し、今後もご来園していただけるよう様々なツアーイベントの拡充を図っております。また、伊豆ぐらんぱる公園では、“飲食”、“音楽”、“動物”、“スポーツ”などをテーマに話題性の高いイベントや季節感のあるイベント、伊豆地域密着型のイベントなど魅力的なイベントの拡充やアトラクションの新設などを行っております。またオリジナリティー溢れる魅力的なお土産やサボテンをテーマとした新商品の開発、公園スタッフのサービスレベルの向上やオペレーションの改善などを行い、収益力の向上を目指します。

映像・音盤関連事業においては、株式会社FLACOCOが展開しているCM制作事業に注力し、またレジャー事業との協業として、WEBプロモーション用の映像制作やイベントのコンテンツ制作を行います。

投資事業においては、引き続き慎重に市場動向を見定めながら、新規事業への投資を検討するとともに、既存の債権、保有資産の有効活用による収益の効率化を図ります。

グループ全体といたしましては、引き続き経営効率を高めるため、グループ経営改革の実施のため、経費・人材配置の見直しなど、更なる販売費及び一般管理費の削減を図ります。また、財務体質の強化、キャッシュ・フローの面における改善につきましては、引き続き今までの債権を早期に回収することや遊休資産の売却などにより改善を図ります。

これらの改善策を通じ黒字体質への転換を図ることで、継続企業の前提に関する重要な疑義は解消されるものと考えております。

しかしながら、上記の改善策をとるものの、当該改善策を進めるための資金調達計画の実行可能性において、重要な不確実性が認められるため、当該対応を行った上でもなお継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成されており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表には反映しておりません。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	220,039	114,658
売掛金	5,028	20,628
未収入金	11,065	882
商品等	13,394	18,295
短期貸付金	—	20,000
その他	48,742	57,438
貸倒引当金	△1,526	△4,089
流動資産合計	296,745	227,814
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	402,400	397,272
土地	270,252	270,252
その他	70,886	60,559
有形固定資産合計	743,539	728,083
無形固定資産		
のれん	122	—
無形固定資産合計	122	—
投資その他の資産		
投資有価証券	76,987	92,608
長期貸付金	25,680	24,210
長期化営業債権	96,205	95,347
破産更生債権等	2,466	2,466
その他	20,433	16,779
貸倒引当金	△121,851	△119,656
投資その他の資産合計	99,920	111,754
固定資産合計	843,582	839,838
資産合計	1,140,328	1,067,652

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	66,404	59,437
短期借入金	170,002	135,769
未払金	462,716	298,949
前受金	11,042	15,464
預り金	10,371	5,864
未払法人税等	7,992	3,109
賞与引当金	27,063	19,964
債務保証損失引当金	20,000	20,000
事業構造改善引当金	15,600	12,400
その他	3,938	24,698
流動負債合計	795,130	595,657
固定負債		
退職給付引当金	174,420	169,632
繰延税金負債	—	2,403
その他	41,580	41,009
固定負債合計	216,000	213,046
負債合計	1,011,131	808,703
純資産の部		
株主資本		
資本金	268,591	268,591
利益剰余金	△116,996	△347
自己株式	△13,281	△13,215
株主資本合計	138,313	255,028
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△9,296	3,920
その他の包括利益累計額合計	△9,296	3,920
新株予約権	180	—
純資産合計	129,197	258,948
負債純資産合計	1,140,328	1,067,652

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
売上高	1,635,933	1,565,595
売上原価	677,810	643,949
売上総利益	958,122	921,645
販売費及び一般管理費	959,560	930,241
営業損失(△)	△1,437	△8,595
営業外収益		
受取利息	459	416
為替差益	—	7,962
償却債権取立益	9,132	500
その他	17,487	8,691
営業外収益合計	27,078	17,570
営業外費用		
支払利息	3,916	2,751
為替差損	13,133	—
その他	11	—
営業外費用合計	17,061	2,751
経常利益	8,579	6,224
特別利益		
新株予約権戻入益	5,985	180
貸倒引当金戻入額	2,136	—
投資有価証券売却益	2,850	149
債務免除益	701	10,516
債務消滅益	—	101,354
保険差益	43,327	—
特別利益合計	55,001	112,201
特別損失		
減損損失	1,218	289
特別損失合計	1,218	289
税金等調整前四半期純利益	62,362	118,136
法人税、住民税及び事業税	1,009	1,408
法人税等合計	1,009	1,408
少数株主損益調整前四半期純利益	61,353	116,728
少数株主損失(△)	△4,109	—
四半期純利益	65,462	116,728

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	61,353	116,728
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△15,520	13,216
その他の包括利益合計	△15,520	13,216
四半期包括利益	45,832	129,944
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	49,942	129,944
少数株主に係る四半期包括利益	△4,109	—

(3) 継続企業の前提に関する注記

当社グループは、将来に渡って事業活動を継続するとの前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況その他会社の経営に重要な影響を及ぼす事象が存在しております。

具体的には、平成23年3月期に引続きまして、平成24年3月期におきましても営業損失20,789千円となっております。なお、当第3四半期連結累計期間においては営業損失8,595千円、経常利益6,224千円、四半期純利益116,728千円を計上しております。

平成25年3月期に当該事象を解消すべく、レジャー事業においては、株式会社サボテンパークアンドリゾートが運営する各施設において、魅力的な公園施設の改善、イベントの拡充、物販の拡充、お客様満足度向上、効果的な宣伝広告を実施することにより集客力の強化を図ります。

伊豆シャボテン公園では、お客様がご満足し、今後もご来園していただけるよう様々なツアーイベントの拡充を図っております。また、伊豆ぐらんぱる公園では、“飲食”、“音楽”、“動物”、“スポーツ”などをテーマに話題性の高いイベントや季節感のあるイベント、伊豆地域密着型のイベントなど魅力的なイベントの拡充やアトラクションの新設などを行っております。またオリジナリティー溢れる魅力的なお土産やサボテンをテーマとした新商品の開発、公園スタッフのサービスレベルの向上やオペレーションの改善などを行い、収益力の向上を目指します。

映像・音盤関連事業においては、株式会社FLACOCOが展開しているCM制作事業に注力し、またレジャー事業との協業として、WEBプロモーション用の映像制作やイベントのコンテンツ制作を行います。

投資事業においては、引き続き慎重に市場動向を見定めながら、新規事業への投資を検討するとともに、既存の債権、保有資産の有効活用による収益の効率化を図ります。

グループ全体といたしましては、引き続き経営効率を高めるため、グループ経営改革の実施のため、経費・人材配置の見直しなど、更なる販売費及び一般管理費の削減を図ります。また、財務体質の強化、キャッシュ・フローの面における改善につきましては、引き続き今までの債権を早期に回収することや遊休資産の売却などにより改善を図ります。

これらの改善策を通じ黒字体質への転換を図ることで、継続企業の前提に関する重要な疑義は解消されるものと考えております。

しかしながら、上記の改善策をとるものの、当該改善策を進めるための資金調達計画の実行可能性において、重要な不確実性が認められるため、当該対応を行った上でもなお継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成されており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表には反映しておりません。

(4) セグメント情報等

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他	合計	調整額	四半期連結損益計算書計上額
	レジャー事業	映像・音盤関連事業	投資事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	1,515,291	119,835	6	1,635,133	800	1,635,933	—	1,635,933
セグメント間の内部売上高又は振替高	643	300	85,714	86,657	25,765	112,423	△112,423	—
計	1,515,934	120,135	85,720	1,721,790	26,566	1,748,357	△112,423	1,635,933
セグメント利益又は損失(△)	22,536	△10,498	△17,719	△5,680	△257	△5,937	4,500	△1,437

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業等を含んでおります。
 2. セグメント利益又は損失(△)の調整額4,500千円は、セグメント間取引消去であります。
 3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整をおこなっております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他	合計	調整額	四半期連結損益計算書計上額
	レジャー事業	映像・音盤関連事業	投資事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	1,471,221	93,911	—	1,565,133	461	1,565,595	—	1,565,595
セグメント間の内部売上高又は振替高	4,879	—	85,714	90,594	25,714	116,308	△116,308	—
計	1,476,101	93,911	85,714	1,655,727	26,176	1,681,903	△116,308	1,565,595
セグメント利益又は損失(△)	19,561	△20,627	△4,078	△5,144	△3,451	△8,595	—	△8,595

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業等を含んでおります。
 2. 売上高の調整額△116,308千円は、セグメント間取引消去であります。
 3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整をおこなっております。

2. 報告セグメントごとの変更に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更したため、報告セグメントの減価償却の方法を改正後の法人税法に基づく方法に変更しております。

なお、この変更による影響は軽微であります。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(6) 重要な後発事象

該当事項はありません。